12 月 29 日の説教要旨　　「春の命は厳冬の雪の下に」　　山本一牧師

イザヤ書60章 1～6節

●2024 年も様々な出来事がありましたが、特に新しい指導者を選ぶ「選挙」が多い年でした。ただ、SNS 上のフェイクニュースや偏った報道が飛び交い、真実が見えにくい状況があります。また、選ばれた指導者たちの不祥事も後を絶たず、全ての人が「良い指導者」を切望しているにもかかわらず、それがなかなか実現しない現実があると言えます。この状況は現代に限らず、世界中で長い歴史を通じて繰り返されてきました。
●聖書の民であるイスラエルの歴史にも、良い指導者である「王様」を求める人々の姿が描かれています。ダビデ王の死後、王国は分裂し、民は再び良い王を熱望しましたが、願いが叶うことはありませんでした。そのような中で、預言者たちは「必ずメシア（救い主）が現れる」と預言しました。今日のイザヤ書にある「起きよ、光を放て。あなたを照らす光は昇り、主の栄光はあなたの上に輝く」という言葉も、そうした希望を語るものです。そして、ローマ帝国の支配下に置かれた最も社会の闇が深まる時代にイエス・キリストが馬小屋に生まれ、人々に希望をもたらしたのです。イエス様はイザヤの預言通り、全ての人のための救いの光として現れ、苦しむ人々を悲しみや嘆きから解放されました。そして今も、私たちの人生の暗闇の中で出会い、希望を与えてくださる存在として生きておられるのです。
●1943 年 12 月 25 日、アメリカの日系人強制収容所で亡くなった吉永三次牧師の生涯にも、同じ光を見ることができます。彼は『悔恨の半生』という書籍で、愛する妻と子を失い、神を呪うほどの絶望を味わった過去を振り返っています。しかし、彼はこう記しています。「暗黒の最も甚だしいのは日のいづる前である。春の命は厳冬の雪の下に動く。」彼はその絶望の中でキリストへの信仰に目覚め、愛の力を知りました。そして牧師として生きる決心をし、迫害を受けた日系人たちを励まし続けたのです。
●預言者イザヤが「光は昇る。主が永遠の光となり、嘆きの日が終わる」と語ったように、吉永牧師もその生涯を通して、闇の中にある光を証しました。私たちも今、最も暗い、悲しい、また情けないと思う出来事や人生の中にあって、主イエス様と出会うことができます。その出会いは、私たちを救いに導き、新しい命を与えてくださるのです。
最も深い闇の中に希望をもたらしてくださる主イエスを信じつつ、新しい年を迎えましょう。